

推 奨 品 種

夏秋きゅうり品種「つや太郎」

(園試 野菜花き部・南部分場)

1. 来歴

1992年から「試交622」として現地試作され、1995年命名発表された。

2. 特性の概要

- 1) 露地普通・抑制作型において、初期収量は「南極1号」に劣るが、商品果総収量、良果率は同等からやや優る。ハウス早出し作型では、「トップグリーン」より収穫開始期が早く、初期収量、商品果総収量、良果率ともに優る。
- 2) 果色が濃く、光沢があり、果実の揃いが安定的である。
- 3) 草丈はやや低く、葉数が少ない。また、側枝の節間長が短い。
- 4) 「南極1号」よりべと病、うどんこ病の発生が少なく、病害の広がりが遅い。

3. 推奨品種に採用する理由

県内の夏秋きゅうりは、近年、栽培面積が伸び悩み減少傾向にある。その原因の一つとして、収穫作業と並行しての薬剤散布や整枝作業など、作業労力の負担が大きいことがあげられる。「つや太郎」は、露地作型及びハウス早出し作型において、収量性は従来品種並であるが、良果率が高く、果実の外観的品质、揃いも優れていることから収穫調整が比較的容易である。また、べと病、うどんこ病の発生が遅く、側枝の節間長が短いことから防除、整枝誘引作業においても管理作業が緩和される。以上、品質、収量及び管理作業の省力性から判断し、「つや太郎」を推奨品種として採用したい。

4. 適応地域

- 1) 適応地域：県中南部及び沿岸南部
- 2) 適応作型：露地普通・露地抑制作型及びハウス早出し作型

5. 栽培上の留意点

- 1) べと病、うどんこ病に対して「南極1号」より耐病性が強いが、これまでの品種と同様に、予防に重点を置いた防除を行う。
- 2) 県の推奨品種ではないが、既に現地に導入されている「夏すずみ」より収量性、良果率ともに優る。ただし、うどんこ病、べと病に対する耐病性は「夏すずみ」より劣る。

6. 試験成績の概要

表1 収量

作型	品 種	総収量 (kg/a)	商品果収量 (kg/a)	左比 (%)	果実品質別収量割合(%)					前期収量 ¹⁾ (kg/a)	左比
					良果	曲果	尻太	尻細	くず		
普通	南極1号	1,203	1,083	100	71	19	4	0	5	611	100
	夏すずみ	1,073	1,018	94	77	18	1	0	4	525	86
	つや太郎	1,121	1,061	98	78	14	2	0	3	511	84
抑制	南極1号	735	678	100	79	14	4	0	4	240	100
	夏すずみ	682	609	90	79	11	8	0	3	225	94
	つや太郎	730	701	103	76	13	7	0	4	230	96
ハウス早	トップグリーン	387	371	100	77	19	1	0	4	-	
	夏すずみ	416	384	104	74	18	0	2	5	-	
	つや太郎	398	387	104	80	17	0	0	2	-	

¹⁾ 前期収量：8月中旬までの商品果収量

表2 生育

品 種	草丈 (cm)	節数	子づる		第10節(cm)		第1 ²⁾ 節間長	第2 ²⁾ 節間長
			本数7/12	本数7/31	葉長	葉幅		
南極1号	160.0	21.4	5.6	2.4	18.8	27.2	10.4	9.6
夏すずみ	173.6	21.6	6.0	3.6	19.8	26.8	10.2	10.4
つや太郎	149.8	20.8	5.6	1.2	20.4	26.8	8.0	9.2

²⁾ 第1節間長・第2節間長：主枝第10節目から発生した側枝の節間長

表3 病害発生程度(9月10日調査)

品 種	露地夏秋		露地抑制	
	べと病	うどんこ病	べと病	うどんこ病
南極1号	5	5	5	5
夏すずみ	2~3	1	3	1
つや太郎	4	2~3	4	2

表4 第1側枝第1節の節間長(7月24日) (H7 南部分場)

品 種	下段(10段未満)	中段(10~15段)	上段(16段以上)
トップグリーン	12.1	10.7	10.3
夏すずみ	10.1	7.6	12.0
つや太郎	5.1	4.9	9.1